

令和3年度第1回 地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会

令和3年5月11日（火）

午前10時から12時まで

県庁西館4階一会議室A、B、C

次 第

1 開会

- (1) 知事挨拶

2 議事

- (1) 副委員長選出

- (2) 報告

令和3年度の協議事項及び年間スケジュール

- (3) 意見交換

- ・ICTを活用した教育の推進と新時代の教員育成
- ・誰もがスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境の整備

- (4) その他

3 閉会

<配布資料>

○資料1 令和3年度の協議事項及び年間スケジュール

○資料2 「ICTを活用した教育の推進と新時代の教員育成」に関する論点

○資料3 「ICTを活用した教育の推進と新時代の教員育成」に係る主な取組

○資料4 「誰もがスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境の整備」に関する論点

○資料5 「誰もがスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境の整備」に係る主な取組

○別冊 ・第1回実践委員会参考資料

・静岡県商工会議所青年部連合会 絵本「おかねってなあに？」

・経済産業部「企業で活躍する定住外国人ロールモデル活躍事例集」

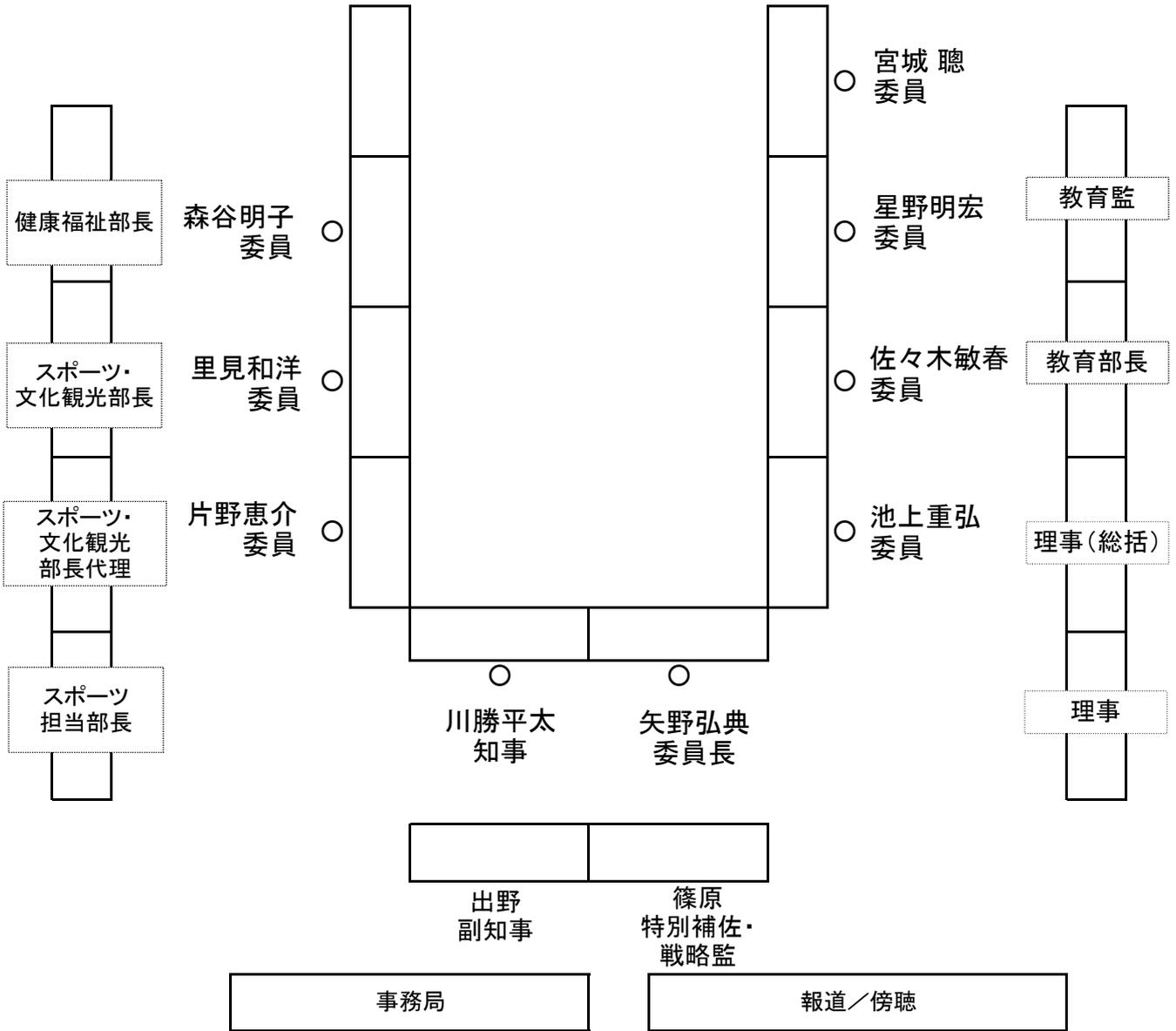
日本語版、スペイン語版、ポルトガル語版、フィリピン語版

第1回地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会 座席表

日時: 令和3年5月11日(火)10:00~12:00

場所: 県庁西館4階第1会議室A、B、C

テレビモニター



(入 口)

地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会委員一覧

(委員長、以下 50 音順、敬称略)

氏名	役職	備考
やの ひろのり 矢野 弘典 (委員長)	(一社) ふじのくにづくり支援センター理事長	県庁
いけがみ しげひろ 池上 重弘	静岡文化芸術大学英語・中国語教育センター長	県庁
かたの けいすけ 片野 恵介	有限会社片野牧場専務取締役	県庁
かとう あきこ 加藤 暁子	日本の次世代リーダー養成塾専務理事、事務局長	Web
ささき としはる 佐々木 敏春	中部電力株式会社常務執行役員静岡支店長	県庁
さとみ かずひろ 里見 和洋	(公財)全日本空手道連盟東京オリンピック対策本部副部長代行兼統括責任者	県庁
しらい ちあき 白井 千晶	静岡大学人文社会科学部教授	Web
とよだ ゆみ 豊田 由美	ちやの ^き 生代表	Web
ふじた ちひろ 藤田 智尋	静岡県立大学国際関係学部	Web
ふじた ひさのり 藤田 尚徳	株式会社なすび専務取締役	欠席
ほしの あきひろ 星野 明宏	静岡聖光学院中学校・高等学校長	県庁
まつむら ともよし 松村 友吉	株式会社いちまる代表取締役社長	Web
マリ クリスティーナ	異文化コミュニケーター	Web
みやぎ さとし 宮城 聡	(公財) 静岡県舞台芸術センター芸術総監督	県庁
もりや あきこ 森谷 明子	日本画家、静岡ユネスコ協会常任理事	県庁
やまうら こずえ 山浦 こずえ	NPO 法人キャリア教育研究所ドリームゲート代表理事	Web
やまもと まさくに 山本 昌邦	(一財) 静岡県サッカー協会副会長	欠席
わたなべ たえこ 渡邊 妙子	(公財) 佐野美術館理事長	Web

令和3年度の協議事項及び年間スケジュール

1 協議事項

令和3年度は、新たな「教育に関する大綱」及び「教育振興基本計画」を含め、以下の事項について協議する。

○ 教育に関する大綱及び教育振興基本計画

<想定される論点>

- ・「知性を高める学習」の充実（学力向上、読書活動、ICT活用等）
- ・「技芸を磨く実学」の奨励（キャリア教育、地域学、スポーツ・文化芸術等）
- ・学びを支える魅力ある学校づくりの推進（学校マネジメント、幼児教育、特別支援教育等）
- ・グローバル人材の育成（国際理解、多文化共生、海外交流等）
- ・地域ぐるみの教育の推進（家庭教育、地域・企業との連携、社会参画等）
- ・誰もが夢と希望を持ち社会の担い手となる教育の推進（いじめ・不登校、男女共同参画・ジェンダー等）等

○ ICTを活用した教育の推進と新時代の教員育成

<想定される論点>

- ・ICT等の技術革新とこれからの学校教育
- ・教育の質の更なる向上と業務の効率化に向けたICT活用拡大の方策
- ・ICTの活用と情操教育との両立に向けた方策
- ・技術革新の進展等に対応した教員の資質能力及びその向上のための方策
- ・教員採用後を見通した大学における人材育成 等

○ 誰もがスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境の整備

<想定される論点>

- ・ウィズコロナ時代に子供が日常的にスポーツ・文化芸術活動に親しむために必要な取組
- ・新型コロナウイルス感染症対策や少子化の進行、教員の多忙化等の制約の下での効果的・効率的な部活動の在り方
- ・大規模な国際大会（ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック）のレガシーの活かし方 等

○ 誰一人取り残さない学びの保障

<想定される論点>

- ・学び直しの中核としての夜間中学（ナイト・スクール・プログラム）の意義と求められる教育活動
- ・夜間中学設置も踏まえた不登校の児童生徒や外国人に対して求められる就学支援
- ・医療的ケアを必要とする児童生徒の就学機会の確保
- ・家族の介護等を行う子供（ヤングケアラー）への支援
- ・個々の能力等に応じた学習支援 等

○ 地域(実社会)と連携した高等学校教育の在り方（小委員会の提案を踏まえた協議）

<想定される論点>

- ・令和3年度のモデル校での取組の検証を踏まえた改善事項及び中長期的な取組
- ・ICT活用や少人数教育などによる教育の質の確保

2 「才徳兼備の人づくり小委員会」における協議

令和3年度のモデル校による取組を検証し拡大につなげるとともに、地域(実社会)と連携した高等学校教育の在り方について議論を深め、地域の特長等に応じた魅力ある高等学校づくりや全県的な取組への拡大のための方策を実践委員会に提案する。

(1) 年間テーマ

地域(実社会)と連携した高等学校教育の在り方

(2) 協議内容

先進事例の把握、現場視察やヒアリングを通じ、現状や課題を踏まえた上で協議を進める。

ア 短期的取組の改善点と中長期的取組の方向性

○令和3年度のモデル校における取組について、内容や実施状況の確認、教員の意見聴取等を行い、問題点の有無及び改善内容を協議

○令和2年度の報告で示した中長期的な取組について、実施課題に取り組むに当たっての留意点、検討課題の具体的な取組内容や進め方等を協議

イ 加速する人口減少を見据えた魅力ある高等学校教育の在り方

○人口減少を見据え、地域の実情に応じた高等学校の在り方について、ICT活用や少人数教育等による教育の質の確保の観点から協議

3 年間スケジュール(予定)

区分	開催時期	協議内容等
第1回	5月11日	・ICTを活用した教育の推進と新時代の教員育成 ・誰もがスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境の整備
第2回	9月14日	・誰一人取り残さない学びの保障 ・大綱(基本的考え方)
第3回	11月	・地域(実社会)と連携した高等学校教育の在り方(小委員会中間報告) ・教育に関する大綱(素案) ・教育振興基本計画(素案)(報告)
第4回	2月	・地域(実社会)と連携した高等学校教育の在り方(小委員会最終報告) ・教育に関する大綱(案) ・教育振興基本計画(案)(報告) ・令和3年度協議事項への対応(報告)

※上記のほか、学校現場等の視察や才徳兼備の人づくり小委員会委員との意見交換を実施予定

「ICTを活用した教育の推進と新時代の教員育成」に関する論点

技術革新が進展し、社会を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）が到来しつつあり、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難になっているが、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、「ニューノーマル」への移行が求められるなど、先行きは一層不透明となっている。

こうした時代においては、様々な変化や課題が生じると見込まれるため、特定の分野の知識や技能だけでなく、新たなことを学び、予測できない変化を前向きに受け止め、地球規模の諸課題も自らの課題として考え、責任ある行動がとれる力を身に付けていくことが重要である。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、登校や外出が制限される中での学びの機会や質の確保が課題となった一方で、ICTを活用した学習環境の整備が急速に進み、ICTの可能性や重要性がクローズアップされた。

全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するため、ICTの特性を最大限活用した効果的な教育活動を進めていくとともに、ICTの活用をはじめ、Society5.0時代に求められる教員を育成していく必要がある。

◆論点1：教育の質の向上に向けたICTの効果的な活用

学校教育における様々な課題の解決を図り、教育の質の向上につなげていくため、具体的にどのようなICTの活用策が考えられるか。

また、ICTの活用を進めていく上で、どのような点に留意する必要があると考えるか。

【検討の視点】

- ・ ICT等の技術革新とこれからの学校教育
- ・ 教育の質の更なる向上と業務の効率化に向けたICT活用拡大の方策
- ・ ICTの活用と情操教育や実践活動との両立に向けた方策

◆論点2：Society5.0時代に求められる教員の育成

教育の質の向上を図るため、教員にはどのような資質・能力が求められ、それをどのように育成していけばよいと考えられるか。

【検討の視点】

- ・ 技術革新の進展等に対応した教員の資質能力及びその向上のための方策
- ・ 教員採用後を見通した大学における教員養成のあり方
- ・ 教員の負担軽減と求められる知識・技能の変化への対応

「ICTを活用した教育の推進と新時代の教員育成」に係る主な取組

1 総論

○ICT教育戦略室の体制強化（教育委員会教育政策課）[参考資料P2](#)

- ・令和2年8月に設置した教育委員会の関係課等による「ICT教育戦略室」について、令和3年度から企画、人材育成、環境基盤、学校支援の4チームとし、アドバイザーの助言を受けつつ、連携して実効性の高いICT教育に関する施策を展開

○静岡県ICT教育推進協議会の設置（教育委員会教育政策課）[参考資料P3](#)

- ・県と市町による「静岡県ICT教育推進協議会」を設置し、教育におけるICT活用に係る効率化や先進技術の共有化を図り、地域全体として格差を生まない整備に取り組むとともに、県内市町の学校や行政運営の高度化・効率化を推進

○ふじのくに学校教育情報化推進計画(仮称)の策定（教育委員会教育政策課）[参考資料P4](#)

- ・学校教育におけるICT活用を総合的・計画的に推進するため、令和4年度から令和7年度までを計画期間とする「ふじのくに学校教育情報化推進計画（仮称）」を策定

2 ハード整備・ソフト活用

○GIGAスクール構想に関連したICT教育機器の整備（教育委員会教育政策課）

[参考資料P5](#)

- ・ICT教育の充実を図るため、オンライン学習のための貸出用端末等の環境整備や先端技術を活用した教育の実証を実施

○特別支援学校へのICT機器の導入（教育委員会特別支援教育課）[参考資料P6](#)

- ・県立特別支援学校に児童生徒の障害に応じた入出力支援装置を導入し、児童生徒が自らICT機器を操作し活用できる環境を整備

○ICT支援員等の配置（教育委員会教育政策課）[参考資料P7](#)

- ・ICT環境の整備・充実を図る取組等を支援するため、専門的な知識を持つシステムエンジニア等をICT支援員として配置

○ICT活用支援ポータルサイトの公開（教育委員会教育政策課）[参考資料P8](#)

- ・教職員のICTを活用した指導を支援するため、クラウドサービスの利用方法や各学校から収集した電子教材を掲載したサイトを公開

○ICTを活用した講義動画の共有（教育委員会教育政策課）[参考資料P9](#)

- ・各学校で作成した電子教材や、ICTを活用した指導に長けた教員による実際の授業を基にした講義動画を作成

○県立高校におけるEdTech導入実証（教育委員会教育政策課）[参考資料P10](#)

- ・学力向上等の効果が確認されているEdTechサービスの普及に向け、県立高校での導入実証の効果検証を行い、全校での実施を検討

○高校におけるBYODの導入（教育委員会教育政策課）参考資料P12

- ・県立高校において、生徒個人のスマートフォン等を授業に用いるBYODの各学校での導入を推進

○OLMSの導入検討（教育委員会教育政策課）参考資料P15

- ・Eラーニングによる学習の進捗状況等を管理するためのシステムであるLMSの導入を検討

○学校連絡・情報共有サービス「COCOO」の導入（教育委員会教育政策課）参考資料P16

- ・県立学校においてパソコンやスマートフォンによる保護者との連絡ツール「COCOO（ココー）」を試行し、学校と保護者、教員同士の情報共有を図るとともに、利便性を高めて教員の業務負担を軽減

○病気療養中の高校生に対するICTを用いた学習支援（教育委員会高校教育課）参考資料P17

- ・病気療養中の生徒に対する遠隔授業の研究について、実態把握や医療関係機関との連携体制、単位認定を含めた支援体制の研究を推進

3 人材育成

○ICT活用に係る教職員研修の実施（教育委員会教育政策課）参考資料P18

- ・児童生徒の情報活用能力の育成を図り、授業や校務にコンピュータ等の情報手段が一層活用されるよう、ICT活用に係る教職員研修を実施

○教員養成段階におけるICT活用指導力の育成（教育委員会教育政策課）参考資料P20

- ・GIGAスクール構想や新型コロナウイルス対応の中で必要となっているICT活用指導力育成のため、教員養成を担う大学との連携を推進

4 モラル等の向上

○情報モラルの涵養（教育委員会教育政策課）参考資料P21

- ・インターネット上の誹謗中傷への対応等について教職員に対して、「人権教育の手引き」の活用や人権教育担当者研修での講演を実施

○ネット依存への対応（教育委員会社会教育課）参考資料P22

- ・Webシステムを活用したネット依存のセルフチェックを促進するほか、ネットの利用を見直したい小・中学生を対象に野外活動を取り入れた自然体験回復プログラムを実施

「誰もがスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境の整備」に関する論点

「有徳の人」の育成には、「知性を高める教育」だけでなく、「技芸を磨く実学」に触れる機会を与え、多様で柔軟な教育を展開する必要がある。

令和元年にラグビーワールドカップ2019が開催され、日本代表の快進撃と合わせて大きな盛り上がりを見せた。また、本年は、東京2020オリンピック・パラリンピック及び同文化プログラムが開催されることから、これらの大規模な国際大会の開催を絶好の機会と捉え、子供たちのスポーツ・文化芸術活動の促進などに取り組むことが重要である。

こうした中、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校では、部活動をはじめ、様々な活動が制限されることとなった。実体験を得る場としてスポーツ・文化芸術活動の重要性が増しており、子供たちが日常的にスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境の整備が求められる。

また、部活動については、指導者不足等の問題も抱えており、様々な制約の中で、その在り方も課題となっている。

加えて、大規模な国際大会をレガシーとして後世へ継承し、誰もがスポーツや文化芸術に親しみ、その価値への理解を深めていく取組も重要である。

◆論点1：子供たちがスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境の整備

子供たちが日常的にスポーツ・文化芸術に関心を持ち、親しむことができる機会を充実させていくために、具体的にどのような取組が考えられるか。
また、部活動やその大会等の在り方についてどのように考えるか。

【検討の視点】

- ・ウィズコロナ、アフターコロナ時代において子供が日常的にスポーツ・文化芸術活動に親しむために必要な取組
- ・新型コロナウイルス感染症対策や少子化の進行、教員の多忙化等の課題や制約の下での効果的・効率的な部活動やその大会等の在り方

◆論点2：大規模な国際大会を契機としたスポーツ・文化芸術活動の促進

国際大会の開催を一過性のものとすることなく、スポーツ・文化芸術活動の促進につなげていくために、具体的にどのような取組が考えられるか。

【検討の視点】

- ・大規模な国際大会（ラグビーワールドカップ2019、東京2020オリンピック・パラリンピック）のレガシーの活かし方

「誰もがスポーツ・文化芸術活動に親しめる環境の整備」に係る主な取組

1 スポーツの振興

○スポーツ人材バンクの運用（教育委員会健康体育課）参考資料 P25

- ・中学校、高等学校の部活動及び地域のスポーツ教室等の指導者不足への対応を図るため、しずおかスポーツ人材バンクを運用し活用を促進

○しずおか型部活動の推進（教育委員会健康体育課、高校教育課）参考資料 P26

- ・県立学校の部活動へ運動・文化部活動の専門的スキルを持った地域人材を外部指導者として派遣

○地域部活動の推進（教育委員会健康体育課、義務教育課）参考資料 P27

- ・中学校における令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向け、国の委託を受けて拠点校において実践研究を実施

○地域スポーツクラブ（磐田スポーツクラブ）の設置 参考資料 P28

- ・学校に希望する運動部活動がない生徒や専門的な指導が十分に受けられない生徒のスポーツ活動を支援するため、地域スポーツクラブを設置

○ラグビー聖地化の取組（スポーツ・文化観光部スポーツ政策課）参考資料 P29

- ・ラグビー文化の醸成とラグビーワールドカップ2019のレガシーを後世へ継承することによりラグビーの聖地化を図るため、①する、②みる、③ささえる、④まなぶ、⑤楽しむ、の5つの視点で環境づくりを推進
- ・ラグビーワールドカップ2019を契機に認識が高まったラグビーの意義や魅力及び大会実績を次世代を担う子供たちに継承するため、ラグビー伝承本を県内小中高校生対象に作成・配布し、ラグビーの精神を学校教育に活用

○エコパ5面化の利活用（スポーツ・文化観光部スポーツ政策課）参考資料 P31

- ・ラグビーの聖地化に向け、エコパの拠点化を図るため、ラグビーグラウンドの5面化を活かした大会や合宿の誘致を推進

○ラグビー教育の推進（教育委員会健康体育課、スポーツ・文化観光部スポーツ政策課）

参考資料 P33

- ・ラグビー日本代表等による出前授業、ラグビー体験授業、ラグビー部等へ活動支援、体力向上の取組支援等を実施

○オリンピック・パラリンピック教育の推進（教育委員会健康体育課）参考資料 P34

- ・オリンピック・パラリンピックを題材とした授業の実施、講演会、交流活動、効果的な教育実践に関する関係者による協議、セミナーを実施

○オリパラ運営体験プログラムの実施 (スポーツ・文化観光部オリンピック・パラリンピック推進課)

参考資料 P35

- ・東京 2020 大会を契機とした人づくりを実施するにあたり、高校生・大学生等に大会の準備・運営を通じてスポーツの価値や魅力等を学び、参画する機会を創出

○東京 2020 大会学校連携観戦プログラムへの参加 (スポーツ・文化観光部オリンピック・パラリンピック推進課) 参考資料 P36

- ・東京 2020 大会組織委員会が企画した学校連携観戦プログラムに参加し、次代を担う多くの子供達に本大会を生で観戦する機会を提供

○東京オリンピック・パラリンピック自転車競技レガシー創出に向けた取組

(スポーツ・文化観光部スポーツ政策課) 参考資料 P37

- ・自転車文化の醸成と自転車文化の発信のための体制等を整備するとともに、国際大会の誘致や開催に向けた準備を実施

○サイクルスポーツの聖地づくり (スポーツ・文化観光部スポーツ政策課)

参考資料 P38

- ・サイクルスポーツの聖地づくりのため、市町や関係団体等と連携し、競技やサイクルツーリズムの振興、自転車利用の視野拡大、走行空間の整備を推進

○スポーツ聖地づくり (スポーツ・文化観光部スポーツ政策課) 参考資料 P39

- ・スポーツの聖地づくりのため、参画人口の拡大、人材と場の充実、地域活性化、競技力向上等を部局横断で総合的に推進

2 文化芸術の振興

○ふじのくに子ども芸術大学の実施 (スポーツ・文化観光部文化政策課) 参考資料 P40

- ・子どもが本物の文化に触れる機会の充実のため、小・中学生を対象に、活躍するアーティスト等による体験・創造講座を実施

○子どもが文化と出会う機会の創出 (スポーツ・文化観光部文化政策課) 参考資料 P41

- ・プロオーケストラが学校を訪問し、音楽プログラムや未就学児コンサートを実施
- ・SPACが学校等を訪問し、演劇プログラム等を実施

○SPAC演劇アカデミーの開催 (スポーツ・文化観光部文化政策課) 参考資料 P43

- ・高校生を対象に「演劇の都」を担える人材を養成する演劇スクール「SPAC演劇アカデミー」を開催

○オリンピック・パラリンピック文化プログラムの推進 (スポーツ・文化観光部文化政策課) 参考資料 P44

- ・文化芸術の力を活かし地域活性化に取り組む地域部活「掛川未来創造部 Palette (掛川市)」や「地域情報誌制作プロジェクト (伊豆市)」等を支援